

令和4年度第2回いわき市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時 令和5年3月15日（水） 14:00～16:00

場 所 南部清掃センター 4階 中会議室

出席状況 17名中13名出席：過半数の出席者により会議成立
(市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則第31条第2項)

会 長	西山奈津江	出				
副会長	坂本 直道	出				
委 員	赤津 剛洋	出、	小豆畑 淳	出、	池端 美雪	出、
	大和田廣子	出、	越智 春子	欠、	鯨岡 節子	欠、
	小林 正喜	欠、	櫻澤 徳一	出、	丹野 淳	出、
	豊田 銀子	出、	根本 宏	出、	吉田 秀樹	出、
	人見 順子	出、	福井 朗子	欠、	松尾 幸治	出

事務局 ごみ減量推進課課長、主幹、庶務係長、計画係長、係員1名
清掃管理事務所次長 計5名

- 議 事
- (1) 南部清掃センターについて
 - (2) 令和4年度ごみ排出量の見込みについて **【資料1】**
 - (3) 令和5年度一般廃棄物（ごみ）処理実施計画について **【資料2】**
 - (4) バイオマス資源としての生ごみの活用

《議事(1) 南部清掃センターについて》

事務局からの説明、ビデオ視聴後、施設見学を実施。

《質疑応答》

質疑応答なし。

《議事(2) 令和4年度ごみ排出量の見込みについて》

資料1により、事務局説明後、質疑応答

《質疑応答》

- (委員)・ 先日の市議会にて、内田市長が、「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の指標である1人1日当たりのごみ排出量について、令和7年度の間目標値を、令和5年度中に達成できる見込みである。」と話していたが、そのような予測なのか。
- (事務局)・ 1人1日当たりのごみ排出量については、昨年度と比較しても10g減少している。このまま減少傾向が続けば、令和5年度から6年度頃に、概ね達成できると見込んでいる。
- (委員)・ 令和4年度の見込みは973g/人・日で、令和7年度の間目標値までは、1人1日当たり残り13gということなので、13gとはどの程度なのか、自宅で検証したところ、オレンジやみかんを4分の1に切って、皮を剥いたときの皮が、ちょうど13g程度であった。今後、食事をするときの意識の目安にしたいと思う。

《議事(3) 令和5年度一般廃棄物(ごみ)処理実施計画について》

資料2により、事務局説明後、質疑応答

《質疑応答》

- (委員)・ 家庭用生ごみ処理機等購入費補助金とあるが、何件程度実績があるのか。
- (事務局)・ 家庭用生ごみ処理機については、コンポストと電気式と2種類あり、昨年度の実績では、両方合わせて約70件程度活用されている状況である。
- (委員)・ いわき市は、ごみも減ってきており、目標数値も達成できそうとのことだが、福島県は、ごみ排出量がワースト2位といわれているので、市外では、こういった取り組みはやらないのかと思う。福島市では有料化になるという話もあったみたいだが、他の自治体はどういった状況なのか。
- (事務局)・ 福島市では、報道によれば、ごみの排出量が、目標値に達しなかったため、審議会では、「有料化すべき。一方、導入時期については、災害、コロナ禍、物価高騰などを見極めて判断。」といった方針が示された。これに対し、福島市では、「経済状況も踏まえ、有料化については、時期をみたい。」とのこと。ごみの減

量に向けた「ごみ減量大作戦」などといった様々な施策を展開されてきた。一方でコロナなどの影響もあり、目標値が達成できなかったところ。

いわき市は、1人1日当たりのごみ排出量については、人口減少もあるが、それを加味しても、減少している状況。委員の皆様のご協力で、適正な分別、例えば、生ごみであれば一度絞っていただくなど、そういった一つ一つの細かい努力が、こういった現状に結びついていると考えている。ごみを1gでも多く減らしていきたいと思っている。我々としても色々な啓発を通して、引き続き減量に向けて取り組んでいきたいと思っている。

(委員)・ダンボールコンポストのYoutube動画を拝見した。私たちの所属団体では、毎年、「生ごみ堆肥化講習会」を実施しており、今までは、密閉容器で一次発酵したものを、土に埋めて二重発酵する、というのをやっていたが、それだと、庭があるご家庭や、ある程度自宅に敷地がないと難しい、ということで、新しい方法は何かないかと探していたら、いわき市のダンボールコンポストの動画を見つけて、すごくいいなと思った。5月に講習会実施するので、これも紹介しようと思っており、すごく期待している。昨年10月のリサイクルフェアのときにも、このダンボールコンポストの作成方法を紹介されたとのことだが、他にはどんな場面で紹介があるか、具体的に決まっていたら教えてほしい。

(事務局)・ダンボールコンポストについては、来年度、講座を開設する予定。具体的な場所などは未定だが、例えば、文化センターや会議室などで、10~20名程度といった形で参加者を募集して、一緒に作成することを想定している。昨年10月開催のリサイクルフェアでは、30組程度用意していたのだが、午前中でいっぱいになった。そういったフェアでも企画していきたいと考えている。募集方法や募集時期などは未定。

(委員)・広報いわきに掲載されるか。

(事務局)・広報の仕方については、今後検討していきたいと考えている。

(委員)・2月に一般廃棄物収集運搬許可業者宛てに、ごみ出し困難者への対応のアンケート依頼がきたのだが、一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に基づいた、現状把握のための調査か。

(事務局)・まずは現状把握が目的である。また、体制を構築していくうえで、収集体制でも、こういった手法が可能か、検証している段階。

《議事(4) バイオマス資源としての生ごみの活用》

福島工業高等専門学校都市システム工学科丹野助教授（当審議会委員）より説明、バイオマスガス発生の実験後、質疑応答

《質疑応答》

- (委員)・ 実験で用いた試料は、1日おいただけ、との話だったが、日数を置けばガスはもっと発生するのか。
- (丹野委員)・ 生ごみであれば、1日50g程度、ガスは発生する。メタン発酵の条件において、例えばメタン発酵のタンクの中では、だいたい20～30日間、循環しているような状態。なので、30日間発酵槽の中においておくと、どの程度ガスが発生するか、毎日測定し、最終的に累積のガス発生量をみている。生ごみであれば1日で50ml程度ガスが発生するので、×30日で1500mlくらいは発生する。そういった実験や調査を行っている。